

14時30分解禁

平成26年1月 全国百貨店売上高概況

平成26年2月19日

I. 概況

1. 売上高総額	5,600億円余
2. 前年同月比	2.9% (店舗数調整後/3か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	85社 242店 (平成25年12月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,239,184㎡ (前年同月比:-1.4%)
5. 総従業員数	80,409人 (前年同月比:-2.4%)
6. 3か月移動平均値	6-8月 2.2%、7-9月 0.6%、8-10月 1.5%、 9-11月 1.5%、10-12月 1.3%、11-1月 2.3%

【参考】平成25年1月の売上高増減率は0.2% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

昨年末からのプラス基調を継続し3か月連続のプラスとなった。

今年1月は、景況感の回復による消費マインドの改善や、消費税率引上げを控えた駆け込み需要、更には冷え込みによる季節需要の高まりなどを背景に、売上動向は初売り以降月間を通じて好調に推移した。恒例の福袋や冬のクリアランスセールだけでなく、高付加価値・本物志向の下でプロパー品(正価商材)もよく動いたことから、主力の衣料品(+0.5%)が堅調に推移したほか、ラグジュアリーブランド(身のまわり品:+6.1%)や高級時計・宝飾品(美術・宝飾・貴金属:+22.6%)などの高額商材についても一段と高い伸びを見せた。また、ほとんどの商品分類で昨年12月の伸び率を上回るなど、年明けから好調なスタートを切ることができた。

地区別では、改装効果のある大都市(10都市:+4.2%)に加え、関東地区が7か月ぶりにプラスするなど地方(10都市以外:+0.4%)も2か月ぶりに前年実績をクリアしたこと、商品別でも2か月ぶりに主要5品目(衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品)全てがプラスとなったこと、住宅市場の活況を受けて家具(+11.4%)が2か月連続で二桁増を記録したこと、などが注目される。

なお、訪日外国人については、春節の前倒し(去年:2/10⇒今年:1/31)もあって、中華圏(中国、台湾、香港等)からの来店が牽引する形で、売上(+117.1%)・客数(+97.5%)共に倍増ペースを続けていることが報告されている。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇ 中旬は冬型の気圧配置が強まり、全国的に気温が低くなった。一方、下旬は全国的に気温が平年を上回る日が多かった。また、太平洋側は高気圧に覆われて晴れの日が多く、日本海側では平年並みの降雪量だった。

(2) 営業日数増減 30.1日(前年同月比±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(〃 ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数133店舗)

①増加した:46店、②変化なし:50店、③減少した:37店

(5) 1月歳時記(初売り、冬の全館セール、成人の日)の売上(同上/有効回答数124店舗)

①増加した:27店、②変化なし:71店、③減少した:26店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2014年01月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	560,039,783	100.0	2.9 (2.3)
10都市	372,814,561	66.6	4.2 (4.0)
札幌	13,904,713	2.5	3.1
仙台	8,337,713	1.5	6.7
東京	138,060,807	24.7	5.4 (4.8)
横浜	32,414,504	5.8	5.6
名古屋	35,491,763	6.3	7.8
京都	21,944,134	3.9	1.1
大阪	76,945,725	13.7	4.6
神戸	14,682,759	2.6	-2.6
広島	12,243,072	2.2	-10.3
福岡	18,789,371	3.4	5.5
10都市以外の地区	187,225,222	33.4	0.4 (-0.8)
北海道	2,994,291	0.5	-1.2
東北	9,343,340	1.7	3.4
関東	89,196,458	15.9	0.4 (-1.5)
中部	14,314,910	2.6	-0.9
近畿	18,191,772	3.2	-0.3
中国	13,173,498	2.4	1.7 (-2.5)
四国	11,043,721	2.0	1.3
九州	28,967,232	5.2	-0.1

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	560,039,783	100.0	2.9 (2.3)
紳士服・洋品	48,149,593	8.6	1.6 (1.0)
婦人服・洋品	150,354,416	26.8	0.2 (-0.3)
子供服・洋品	15,154,536	2.7	-1.9 (-2.4)
その他衣料品	14,728,615	2.6	2.1 (1.6)
衣 料 品	228,387,160	40.8	0.5 (0.0)
身のまわり品	76,957,419	13.7	6.1 (5.3)
化粧品	26,744,774	4.8	7.3 (6.9)
美術・宝飾・貴金属	25,606,941	4.6	22.6 (21.2)
その他雑貨	21,670,580	3.9	1.4 (1.2)
雑 貨	74,022,295	13.2	10.2 (9.5)
家 具	6,794,473	1.2	11.4 (9.3)
家 電	1,243,058	0.2	-4.9 (-5.0)
その他家庭用品	18,274,093	3.3	4.2 (3.6)
家 庭 用 品	26,311,624	4.7	5.5 (4.6)
生 鮮 食 品	25,941,990	4.6	0.9 (0.6)
菓 子	34,192,555	6.1	3.1 (2.5)
惣 菜	28,396,166	5.1	1.4 (1.0)
その他食料品	36,188,080	6.5	-0.4 (-0.8)
食 料 品	124,718,791	22.3	1.2 (0.8)
食 堂 喫 茶	14,951,353	2.7	-1.7 (-1.9)
サ ー ビ ス	5,284,304	0.9	6.5 (6.4)
そ の 他	9,406,837	1.7	5.7 (4.2)
商 品 券	10,162,904	1.8	-5.9 (-6.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 4.2% (店舗数調整後/6か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | 0.4% (店舗数調整後/2か月ぶりプラス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	4.2	2.8	6か月連続プラス
札幌	3.1	0.1	6か月連続プラス
仙台	6.7	0.1	2か月ぶりプラス
東京	5.4	1.3	6か月連続プラス
横浜	5.6	0.3	3か月連続プラス
名古屋	7.8	0.5	6か月連続プラス
京都	1.1	0.0	3か月連続プラス
大阪	4.6	0.6	15か月連続プラス
神戸	-2.6	-0.1	7か月連続マイナス
広島	-10.3	-0.3	12か月連続マイナス
福岡	5.5	0.2	3か月連続プラス
10都市以外の地区	0.4	0.1	2か月ぶりプラス
北海道	-1.2	0.0	2か月連続マイナス*
東北	3.4	0.1	4か月ぶりプラス*
関東	0.4	0.1	7か月ぶりプラス
中部	-0.9	0.0	7か月連続マイナス
近畿	-0.3	0.0	2か月連続マイナス
中国	1.7	0.0	3か月連続プラス*
四国	1.3	0.0	3か月連続プラス
九州	-0.1	0.0	2か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が15か月連続、身のまわり品が6か月連続、家庭用品が4か月連続、衣料品が3か月連続、食料品が2か月ぶりのプラスと、全品目が2か月ぶりにプラスとなった。また、美術・宝飾・貴金属が17か月連続、家具が6か月連続、紳士服・洋品、婦人服・洋品、化粧品が3か月連続、その他家庭用品、菓子が2か月連続、その他雑貨、生鮮食品、惣菜が2か月ぶり、その他衣料品が4か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	2.9	—	3か月連続プラス
紳士服・洋品	1.6	0.1	3か月連続プラス
婦人服・洋品	0.2	0.1	3か月連続プラス
子供服・洋品	-1.9	-0.1	4か月連続マイナス
その他衣料品	2.1	0.1	4か月ぶりプラス
衣料品	0.5	0.2	3か月連続プラス
身のまわり品	6.1	0.8	6か月連続プラス
化粧品	7.3	0.3	3か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	22.6	0.9	17か月連続プラス*
その他雑貨	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
雑貨	10.2	1.3	15か月連続プラス
家具	11.4	0.1	6か月連続プラス
家電	-4.9	0.0	2か月連続マイナス
その他家庭用品	4.2	0.1	2か月連続プラス
家庭用品	5.5	0.3	4か月連続プラス
生鮮食品	0.9	0.0	2か月ぶりプラス*
菓子	3.1	0.2	2か月連続プラス*
惣菜	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
その他食料品	-0.4	0.0	3か月連続マイナス*
食料品	1.2	0.3	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	-1.7	0.0	4か月連続マイナス
サービス	6.5	0.1	2か月連続プラス
その他	5.7	0.1	2か月ぶりプラス
商品券	-5.9	-0.1	35か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成26年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年2月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,380億円余
2. 前年同月比	5.4% (店舗数調整後/6か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭5.8%(91.5%) : 非店頭1.0%(8.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成25年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	875,557㎡ (前年同月比:-4.7%)
6. 総従業員数	18,975人 (前年同月比:1.2%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 4.4%、7-9月 2.3%、8-10月 3.3%、 9-11月 2.9%、10-12月 3.0%、11-1月 4.2%

[参考] 平成25年1月の売上高増減率は0.5% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

- (1) 東京地区の1月の入店状況は、好天に恵まれたこともあり、2%程度の増加と好調に推移した。
- (2) 今年の初商と冬のクリアランスセールは、概ね前年を上回る水準で好調に推移し、中には2日と3日の初売りが過去最高を記録する店もあった。
- (3) 主力の衣料品(+4.7%)については、全国的な傾向以上にプロパー品(正価商材)の好調さが目立った。具体的には、紳士・婦人共にコート、ジャケット等の重衣料や、フォーマルウェアなどがよく動いた。また、紳士では消費税率引上げ前の駆け込み需要もあって、スーツやイージーオーダーの受注が大きな伸びを示した。
- (4) 高額品については、依然として、ラグジュアリーブランド(身のまわり品:+8.3%)や高級時計(美術・宝飾・貴金属:+31.6%)などを中心に、呉服や高級寝具(その他衣料品+15.7%)、あるいは高級家具(+10.0%)なども含めて活況が続いている。
- (5) 東京地区の2月中間段階(2月16日まで)の商況は、バレンタイン商戦の活況などプラス要素があるものの、2週連続の週末大雪の影響もあって、前年を3%程度下回る水準で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.1日(前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した:10店、②変化なし:4店、③減少した:4店
- (3) 1月歳時記(初売り、冬の全館セール、成人の日)の売上(同上/有効回答数18店舗)
 - ①増加した:8店、②変化なし:8店、③減少した:2店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年01月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	138,060,807	100.0	5.4 (4.8)
紳士服・洋品	13,827,687	10.0	5.5 (5.2)
婦人服・洋品	34,200,769	24.8	3.8 (3.1)
子供服・洋品	2,636,595	1.9	-0.5 (-0.6)
その他衣料品	3,289,129	2.4	15.7 (15.4)
衣 料 品	53,954,180	39.1	4.7 (4.1)
身のまわり品	19,716,245	14.3	8.3 (7.9)
化粧品	6,849,011	5.0	13.4 (13.2)
美術・宝飾・貴金属	7,851,499	5.7	31.6 (31.3)
その他雑貨	6,289,365	4.6	-0.5 (-0.6)
雑 貨	20,989,875	15.2	14.5 (14.3)
家 具	1,972,758	1.4	10.0 (6.6)
家 電	671,637	0.5	-13.6
その他家庭用品	4,884,840	3.5	9.7 (9.6)
家 庭 用 品	7,529,235	5.5	7.2 (6.2)
生 鮮 食 品	4,570,308	3.3	-1.9 (-2.5)
菓 子	7,697,945	5.6	0.8 (-0.2)
惣 菜	6,533,684	4.7	-1.7 (-2.4)
その他食料品	8,810,595	6.4	-4.0 (-4.4)
食 料 品	27,612,532	20.0	-1.8 (-2.5)
食 堂 喫 茶	3,181,771	2.3	2.0 (1.3)
サ ー ビ ス	2,171,015	1.6	10.9
そ の 他	2,905,954	2.1	7.3 (2.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)
※

商 品 券	2,112,955 千円	-8.0 (-8.5)
従 業 員 数	18,975 人	1.2
店 舗 面 積	875,557 m ²	-4.7

営 業 日 数	30.1 日	前年	30.1 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が11か月連続、身のまわり品が6か月連続、衣料品と家庭用品が3か月連続のプラス。食料品が4か月連続のマイナスと、11月から3か月連続で同様の動きとなった。また、化粧品が18か月連続、美術・宝飾・貴金属が13か月連続、紳士服・洋品が6か月連続、婦人服・洋品、その他衣料品、家具が3か月連続、その他家庭用品、菓子が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	5.4	—	6か月連続プラス
紳士服・洋品	5.5	0.6	6か月連続プラス
婦人服・洋品	3.8	0.9	3か月連続プラス
子供服・洋品	-0.5	0.0	4か月連続マイナス
その他衣料品	15.7	0.3	3か月連続プラス
衣料品	4.7	1.8	3か月連続プラス
身のまわり品	8.3	1.1	6か月連続プラス
化粧品	13.4	0.6	18か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	31.6	1.4	13か月連続プラス*
その他雑貨	-0.5	0.0	3か月ぶりマイナス*
雑貨	14.5	2.0	11か月連続プラス
家具	10.0	0.1	3か月連続プラス
家電	-13.6	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	9.7	0.3	2か月連続プラス
家庭用品	7.2	0.4	3か月連続プラス
生鮮食品	-1.9	-0.1	6か月ぶりマイナス
菓子	0.8	0.0	2か月連続プラス*
惣菜	-1.7	-0.1	5か月連続マイナス*
その他食料品	-4.0	-0.3	4か月連続マイナス*
食料品	-1.8	-0.4	4か月連続マイナス
食堂喫茶	2.0	0.0	3か月連続プラス
サービス	10.9	0.2	2か月連続プラス
その他	7.3	0.2	2か月ぶりプラス
商品券	-8.0	-0.1	33か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>